

「(プログラム名称を記入) 参加報告書」

文学部社会学専修3回生 許 蔚欣

ソウル国立大学、国立台湾大学と京都大学の共同ワークショップ、東アジアジュニアワークショップに参加してきました。今回はソウル大がホストとなっており、韓国について色々学びました。最初に三日間はフィールドトリップで、そのあとの二日間はワークショップという流れで行われました。

フィールドトリップの三日間それぞれテーマがあり、初日は韓国の特徴的なコミュニティについていろいろを見てきました。まず大林(デリム)というところで中華料理を食べて、当地の中国人コミュニティを見学しました。大林は日本の中華街と違い、生活感が感じられるコミュニティであり、日本の観光スポットのような中華街と異なります。また、このフィールドトリップで初めて大林に来たソウル大生が多く、韓国でも外国人コミュニティが一般韓国社会に排除されているのではないかと思いました。この後、鷺梁津(ノリャンジン)というところで韓国の予備校街を見学しました。受験生たちは住み込みでストイックな生活を送りながら、受験勉強をしています。そして、大学受験のみならず、公務員試験や消防士試験などのための予備校もあり、韓国の学歴社会の厳しさを強く感じました。

フィールドトリップの二日目のテーマは平和でした。キャンドルナイトデモが行われた光化門広場に行き、セウォル号事故の記念物や慰安婦問題の解決を求める毎週水曜日に行われる「水曜集会」などを見学し、去年の大統領弾劾についていろいろ学びました。最も印象的なのはセウォル号事故の記念物でした。事故の時の船内の画像、政府やマスコミの不適切な対応に関する看板が多くありました。犠牲者を追悼するのみならず、事故の反省も事故対応に対する批判も行われ、自分の追悼記念物に対する印象が変わりました。

三日目のフィールドトリップのテーマは学生運動でした。青年団体の代表から若者の労働市場や就職問題についてお話を聞かせてもらい、今韓国の若者の労働における問題を知ることができました。また、梨花女子大学で学生運動の事例を紹介してもらいました。指揮官不在の学生運動もあることがわかり、そしてその理由と背景なども知り、学生運動の多様性を知ることができました。

後半の二日間は発表ワークショップでした。それぞれ自分の興味のあるテーマについて発表し、私は日本と台湾におけるLGBT発展について発表しました。私の発表に対して興味を持ってくれた学生が多くおり、交流もたくさんできておもしろかったです。特に台湾の学生の中にLGBT運動に関わっている学生がいて、なかなか資料や文献だけでは知れない話がたくさん聞けました。また、今まであまり触れていないテーマの発表も聞けて、特に韓国も台湾の学生も社会運動に熱心で、大変勉強になりました。

この東アジアジュニアワークショップで、フィールドトリップも発表もとても興味深く、いい経験になりました。京大でなかなか出会えないことに出会い、そして韓国と台湾の学生と友達になれ、とても楽しかったです。また機会があればこのワークショップにもう一度参加したいと思います。